



図書館だより



2025年
2月21日号

秋草学園高等学校 図書館

本屋大賞のノミネート作が発表されました。昨年度大賞だった 913.6-ミ『成瀬は天下を取りに行く』 宮島未奈 || 著 (新潮社)の続編、『成瀬は信じた道を行く』も選ばれています。未来に不安を抱いていたとしても、この本を読めば勇気づけられる気がします。本は皆さんを助けたり、寄り添ったり、力を分けてくれる存在です。ぜひ装備して人生を歩んでください。図書館では「本屋大賞」「キノバス」「埼玉県の学校司書が選んだイチオシ本」を展示しています。

贈る言葉に代えて

3年生のみなさんの登校日も後わずかとなりました。残りの高校生活をめいっぱい楽しんでください。興味はあったけれど、まだ読んでいない、そんな本も今のうちにぜひ読みに来てくださいね。まだ間に合います！

さて、今回は新しいステージに一步踏み出す卒業生に(もちろん1、2年生にも)ぜひ読んでいただきたい、ヒントになるような本をご紹介します。

320-カ 『おとめ六法』 / 『新おとめ六法』

上谷 さくら・岸本 学 || 著  
Caho || イラスト KADOKAWA 

困ったことがあった時、この本に答えが載っているかもしれません。恋愛、SNS、学校、暮らし、仕事、結婚で起こりうるトラブル事例、それに対するあなたを守る法律と手続き(対処)方法が書かれています。

今後のためにも、トラブルに遭わないためにも、あらかじめ読んでおいて、知ってほしい内容です。

913.6-オ 『まち』

小野寺 史宜 || 著 祥伝社  

主人公の江藤瞬一は、小学生の時に火事で両親を亡くし、祖父に育てられました。祖父は尾瀬で歩荷(ぼっか: 車両通行不可の道を人力で荷物を運ぶ仕事)をしています。高校三年生で進路について考えた時、祖父と同じ歩荷になろうかと相談しますが、「東京に出て、よその世界を知れ。知って、人と交われ」と反対されます。考えた結果、群馬から上京、進学も就職もせず、アルバイトをして丸四年が過ぎました。ある時祖父が東京に来て「瞬一は、頼る側じゃなくて、頼られる側でいろ。」と言います。「じいちゃんはまだそういうことを言わない。だからこそ、言われると響く。」そうして瞬一の時間が進みはじめ、最終的に目標を見つけます。

本屋大賞ノミネートから

913.6-フ 『人魚が逃げた』

青山 美智子 || 著 PHP 研究所 

「僕の人魚が、いなくなってしまうて……」

「……………逃げたんだ。この場所に」

と語る「王子」を名乗る青年が銀座に現れます。時を同じくして、同じく銀座にいた、悩める5人のお話へと繋がっていきます。読み返したくなる、幸せになれる物語です。

913.6-ノ 『小説』

野崎 まど || 著 講談社 

小説家の屋敷に忍び込み、蔵書を読みふける二人の少年。一人は小説を書き始め、もう一人はそれをサポートする立場に。小説とは何なのか? 読むだけじゃダメなのか?

『走れメロス』『ホビットの冒険』『イエイツ全詩集』、読書好きが喜ぶ本が次々登場します。

新着コーナーの気になる本

E-3 『そういうゲーム』

ヨシタケ シンスケ || 作 KADOKAWA 

「おうだんほどの 白いところだけふんで むこうがわまで いけたら 勝ち。おちたらワニがいる。」みなさんも「そういうゲーム」をした経験はありますか? 「日々はミニゲームの連続」だと考えてみる。大人向けの絵本です。そしてヨシタケさん初のモノクロ作品です。

913-3 『古典みゅーじあむ』

根来 麻子 || 編著 文学通信 

古典作品のエピソードが解説付きで紹介されています。誰もが知っている有名作品、どんなお話なのか知りたい! そんな時はこちらで簡単に紹介してもらえます。各エピソード2ページ程度でまとめられているので、朝読書など、すきま時間で本を読みたい際にもおすすめです。

司書の今月はこの本読みました



堀川アサコさんの『幻想郵便局』(913.6-ホ)を読んでみました。就職浪人中の主人公。履歴書の特技欄に「探し物」と書いたことで「登天郵便局」からアルバイトのお誘いが。そこは、普通の人は訪れることができない、冥界と現世の境目だった。美人な幽霊に、“オネエ言葉”のおじさんといった個性的なキャラクターたち。アニメ映画のように脳内再生されました。ほっこり感動系なお話かと思いきや、美人幽霊を殺めた犯人探しや、郵便局消滅の危機が迫るなど、タイトルと表紙イラストからは想像していなかった展開に惹きつけられます。【吉村】